

診療所委員会の取り組み

看護部長

関 みわ

診療所委員会は、2011年10月の診療所構想プロジェクト会議の答申を受けて、昨年10月よりスタートしました。法人の診療所が内包している様々な課題、診療所のあるべき姿と現状の問題点など、行きつ戻りつ論議の中で、①診療所の地域分析を各事業所で行うためのモデルとして春日診療所と九条診療所を実施。②診療所職員の研修として仁和診療所で実施している臨床倫理6分割カンファを広めること、他事業所の見学を企画する。③全日本の訪問診療実態調査に取り組み、自らの到達を客観視する。と3つの柱で進めてきました。

6月18日、進んだ経験に学ぶとして、福井市オレンジホームケアクリニックを見学しました。目からうろこの実践で、多くの学びを得ることができました。患者家族を中心に医師、看護師、MSW、医事などすべての職員が情報を共有し、プロとして楽しく働く、ITの活用など学ぶことができました。地域包括ケアの時代と言われますが、「キウアからケアへ」時代と医療の進歩が要請されている、その大きな契機は在宅にあると再確認しました。

今後、委員会はメンバーの再編もあります。診療所委員会って何をしているの？とならないよう発信していきたいと思っています。

奨学生は、学び、交流しています

看護部

佐藤知曉

京都保健会には6月末時点で121名(専門学生・大学生)の奨学生がいます。仲間づくりをしながら、将来の民医連の看護を担う後継者として育ててほしい(育ちあいたい)と、様々な企画を行なっています。

奨学生のつどいでは、月1回、時には保健会事務局も巻き込み(巻き込まれ?)ながら夕食(炊き込みご飯、カレー等)を手作りし、食べながら近況報告や学習、交流をしています。県連主催の医系学生企画『コミュニケーションカフェ』では、「非がん疾患とともに生きる高齢者への看護実践」最新まで、その人らしく〜というテーマで、長谷川京都民医連中央病院・老人看護専門看護師から講義を受け、事例を元に「共感すること」やチームとの関わり方、認知症の方とのコミュニケーションなど学び、大方など学び、大好評でした。



学習はもちろん、奨学生同士と職員との交流も大事にしていきたいと思っています。

友の会 活動家紹介

九条健康友の会 会長

松山ちづるさん



九条健康友の会会長の松山さんは、約1年前から始めた、おりがみサークルも担当されて

います。サークル参加者とコミュニケーションを十分にとり、作品の作り方を教えておられ、皆が楽しく参加しています。また、いつも参加される方が来ておられないと、電話をかけたがりして頂き、今では毎月2回の企画に発展しています。

友の会の保健学校や会食の集い、日帰り旅行などにも積極的に参加され、お世話をお願いし、職員をサポートして頂いています。日帰り旅行では、目印のために全員分のリボンを手作りで準備してもらい、心遣いに感謝しています。松山さんは、初めて出会う方にも、優しく、明るく、親しみやすく、いつも元気をくれる九条健康友の会になくてならない存在で、とても頼りにしています。(九条診療所 正岡拓慎)